



◆ 野外オペ「テーレン」その③

10日。土井、川又隊員は、テーレンの南～東側の氷河地形の調査に入り、私は白水隊員のキネマティック GPS 測定に同行しました。キネマティック GPS とは、文字通り、移動しながら各ポイントで GPS 測量を行うものです。下記の隊員紹介にあるように、白水隊員は、氷河流動速度を衛星画像を用いて解析していますが、そのデータの精度を検証するために、南極の各地域で GPS 測量に取り組んでいます。まずは、キャンプサイト近くに GPS 基準点を設置しました。そして、携帯型 GPS 測定器を背負って、テーレンの各地域を巡りました。任意に測定ポイントを設定し、GPS アンテナを垂直に立て、数十秒間静止し、データを取得します。途中昼食休憩を挟みながら 14 時ごろまで、十数カ所で測定を行いました。取得データは、帰国後詳細な解析を行います。

その後、翌日の UAV (ドローン) 空撮に備え、黒や赤、黄で塗られた対空標識の設置にあたりました。肝心のドローンですが、スカーレンからテーレンへの物資輸送の際、ヘリのダウンウォッシュで収納箱もろとも吹き飛ばされました。恐る恐る開けてみると・・・、一部の羽の付け根が湾曲しており、急遽、修理となりました。しかし、予備部品と何とか交換し始動できましたが、姿勢制御がうまくできず、残念ながら明日には使えないことになりました。



基準点設置を見守る土井隊員。師弟関係です。



大きな岩の上で折りを・・・いやGPS測定



昼食休憩。レトルトパスタ。味は・・・。



こんな大きなザクロ石の集合体も



試行錯誤しながら修理するも・・・。

◆ JARE57 隊員紹介

白水 薫 (25) 夏隊同行者 東京都出身

総合研究大学院大学 複合科学研究科

吉祥女子中学・高等学校から明治大学農学部に進学。衛星画像の赤外線・可視光線のデータを用いた森林や田畑の植物活性度の解析の研究に取り組んでいた。小学1年時、上野の科学博物館で南極の企画展を見て以来、南極に憧れを持つようになった。現在は、博士課程1年に在籍。氷河・氷床流動速度をμ波を用いた衛星画像解析により行っている。南極では、GPSを用いた氷河・氷床流動速度の調査にあたり、画像解析の検証データを収集するのが目的である。皆さんへは「健康に気を付けて、勉強頑張ってください。風邪ひかないように」とのことです。

南極授業では、実験補助や裏方として協力いただきました。ありがとうございました。



キャンプサイトにて。テーレン氷河を背に。

◆ 食彩 ANTARCTICA

キャンプ地の夕食風景。食材を豊富に持参しており、普通に調理します。ただ、残飯や排水を出せないの食べ切ります。鍋やコンロの容量もあり、大量に品数豊富とはいかないので、基地の食事よりカロリーは控えめです。



8日。豚肉野菜炒め



9日。クリームシチュー



10日。なんと刺身